

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/12/02

米量的緩和の縮小開始時期を確認

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	対ドル相場の動きに注意 予想レンジ: 89.800 ~ 95.800 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	↑	利上げ開始は米国次第？ 予想レンジ: 80.300 ~ 87.000 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↓	FRBとSARBをにらみながら 予想レンジ: 9.200 ~ 10.500 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



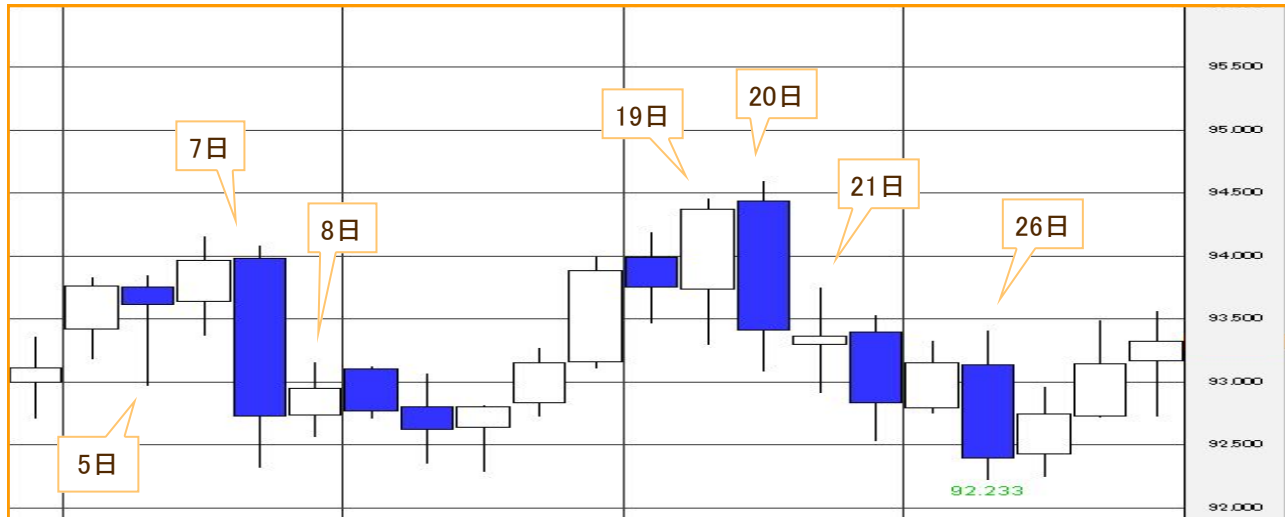
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD / JPY

## 豪ドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	93.002円	94.593円	92.233円	93.325円



5日	豪準備銀行(RBA)は金融政策の現状維持と共に、「豪ドルは依然として不快なほど高い」などとする声明文を発表すると、豪ドル/円は下落した。ただ前月に続き「金融政策は適切」とした上、早期の追加利下げを示唆する文言が見られなかったことから、売りは続かなかった。
7日	豪10月失業率は予想通り5.7%となるも、雇用者数変化が0.11万人増、労働参加率は64.8%と予想(1.00万人増、64.9%)を下回った。前月分の下方修正(失業率:5.6%→5.7%、雇用者数変化:0.91万人増→0.33万人増、労働参加率:64.9%→64.8%)もあり、豪ドル/円は急落。その後、NYダウ平均株価の史上最高値更新を好感して94.083円まで反発するも、同株価が下げると92.326円まで再び下落した。
8日	RBA四半期金融政策報告が公表され、「必要ならば一段の利下げの可能性を排除せず」「14年度の経済成長見通しを、従来の2.5-3.5%から2-3%に引き下げ」などと伝えられると、豪ドル/円は30銭ほど下落。ただ、売り一巡後は公表前の水準を回復した。
19日	RBA議事録で「必要なら一段の利下げを排除せず」「豪ドルは不快なほど高水準、経済リバランスには下落する必要」などの文言に反応して豪ドル/円は小幅に売られるも、概ね声明文を踏襲した内容であったため反応は一時的。その後、中国人民銀行総裁(PBOC)の周小川総裁が「人民元の柔軟化と市場実勢に基づく相場形成に向け、人民元の変動幅を緩やかに拡大する」方針を示すと、中国と貿易的結びつきの強い豪州の通貨である豪ドルにプラスとの見方から豪ドル買いが強まった。
20日	本邦10月貿易収支が10月としては過去最大の赤字幅を記録した事を受けて円売りが優勢となり、豪ドル/円は94.593円まで上昇するも一時的。その後は日経平均株価の下落を始め、デベルRBA総裁補佐が「豪ドルの下落が望ましい」と発言した事や、国際通貨基金(IMF)が「豪ドルは10%過大評価されている」との見解を示してRBAに緩和的な政策の維持を呼び掛けた事、ややタカ派的な米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録などを受けてNYダウ平均株価が下落した事が重なり、豪ドル/円は93.091円まで大幅下落となった。
21日	スティーブンスRBA総裁が「引き続き為替介入にオープン」「世界的な低金利や外貨準備の多様化が豪ドルを押し上げる」等と発言すると、豪ドル/円は下落。NY市場で蒸し返されると、92.919円まで一段安となった。
26日	ユーロ/豪ドル相場でユーロ買い・豪ドル売りが強まり、豪ドル/円は一時92.233円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 今月のポイント

11月の豪ドル/円相場は92.233～94.593円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.4%の小幅上昇（豪ドル高・円安）となった。RBA理事会の声明文やRBA要人からの豪ドル高をけん制する姿勢や、米量的緩和の早期縮小観測を背景とするドル買い・資源安の流れが上値を重くする一方、主要国での株高による「リスク・オン」の動きが下値を支えた。月の高安はわずか2円ほどと、今年に入ってから最も値動きの小さい月となった。

今月のRBA理事会は、事前のエコノミスト予想では金利据え置きがコンセンサスとなっており、市場の関心は声明文での豪ドル相場に対する見解のほうに集まりそうだ。介入を示唆するといった強い口調で豪ドル高をけん制するようだと、豪ドル/円相場を下押す材料となろう。その他、先月、4か月弱ぶり安値水準に達した豪ドル/米ドル相場にも注意が必要だ。先月、0.9050ドル台まで下げたことで、チャート上ではH&S完成が見えてきた。安値を更新する場面では始点（8月に付けた0.88930ドル）に向けた一段安が予想され、豪ドル/円相場も連れ安となる事も考えられる。もし11月の下値を支えた92.20円台を割り込むと、月足の一目均衡表の基準線（2日執筆時点では89.934円）に向けた一段安もあるだろう。豪州経済を確認する上で、10月小売売上高や第3四半期国内総生産（GDP）にも注目したい。（川畑）

（予想レンジ：89.800～95.800円）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

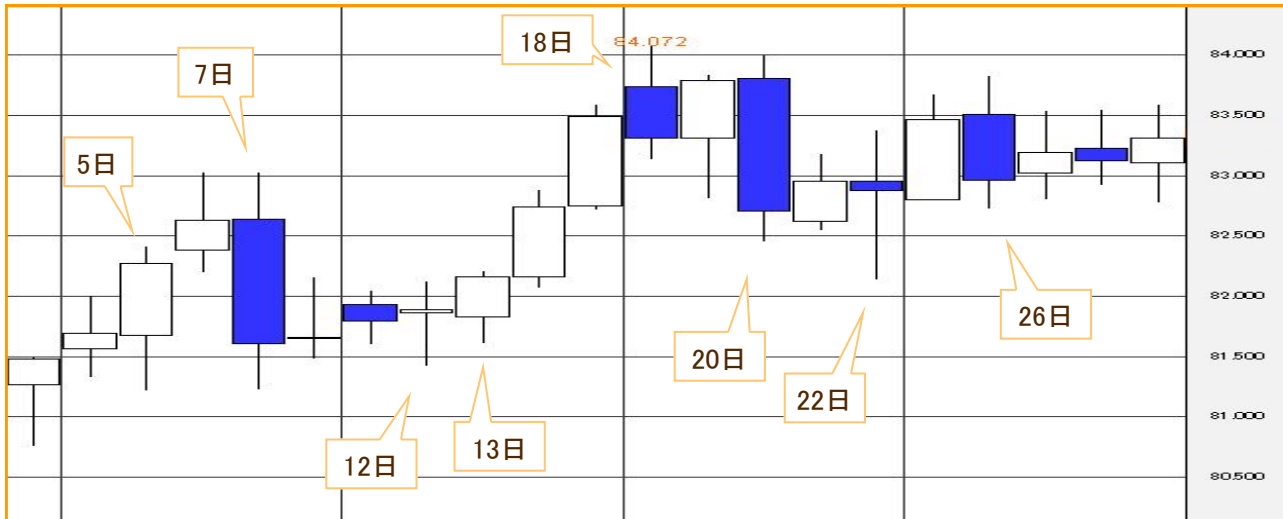
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(日)	11月中国製造業PMI	12/8(日)	11月中国貿易収支
12/2(月)	10月豪住宅建設許可件数	12/10(火)	11月中国鉱工業生産
	11月中国非製造業PMI		11月中国小売売上高
	11月米ISM製造業景況指数	12/12(木)	11月豪雇用統計
12/3(火)	10月豪小売売上高		11月米小売売上高
	RBAキャッシュターゲット	12/16(月)	11月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
12/4(水)	第3四半期豪GDP		日銀短観(日銀)
	11月米ADP全国雇用者数	12/17(火)	RBA議事録
	11月米ISM非製造業景況指数	12/18(水)	米FOMC政策金利発表
	米地区連銀経済報告(ページブック)	12/20(金)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
12/5(木)	10月豪貿易収支		
12/6(金)	11月米雇用統計		
	12月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD/JPY

## NZドル/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	81.273円	84.072円	80.770円	83.318円



5日	NZ第3四半期失業率が6.2%、雇用者数は前期比+1.2%(予想:6.2%、+0.5%)となった。これを受け、NZドル/円は82.413円まで上昇した。
7日	NYダウ平均株価の史上最高値更新を好感してNZドル/円は83.024円まで上昇するも、同株価が下げに転じると81.234円まで急反落となった。
12日	NZ準備銀行(RBNZ)のウィーラー総裁が「NZドルは引き続き高い」と発言した事を受け、81.432円まで急落。ただ「インフレ率が既にも上昇し始めており、それに伴う通貨への影響が懸念材料」と発言し、来年利上げに着手する可能性も示したため、売り一巡後は反発した。
13日	NZ第3四半期小売売上高指数が前期比0.3%と予想(+0.9%)を下回った事を受け、NZドル/円は約30銭下落。ただ、売り一巡後は下げ幅を縮小した。
18日	欧州株高を受けリスクを積極的に取る機運が高まり、NZドル/円は84.072円まで上昇。ただ、その後は史上最高値を更新したNYダウ平均株価が利食い売りに押されて失速すると、83.146円まで反落した。
20日	小高く始まった日経平均株価が下げに転じた事や、ややタカ派的な米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録などを受けてNYダウ平均株価が下落した事が重石となり、NZドル/円は82.466円まで大きく値を下げた。
22日	マクダーモットRBNZ総裁補佐が「NZドルは過大評価されている」と発言するも市場の反応は限定的。その後同総裁補佐が「為替相場について金融政策ができることは少ない」などNZドル高について穏やかな考えを示したため、一時83.373円まで上昇。その後、NY市場にて対ユーロでオセアニア通貨売りが優勢となった事を受けて82.151円まで値を下げるも、安く寄り付いたNYダウ平均株価が引けにかけて史上最高値を更新した事から下げ幅を縮小した。
26日	NZ10月貿易収支は1.68億ドルの赤字(予想:3.50億ドルの赤字、前回:1.99億NZドルの赤字→2.16億NZドルの赤字)と伝えられたが、市場の反応は薄かった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD / JPY

## 今月のポイント

11月のNZドル/円相場は80.770円～84.072円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.5%の上昇（NZドル高・円安）となった。主要国での株高や来年の利上げ観測に支えられて買いが入るも、節目の84円ちょうど付近で伸び悩んだ。

12月は、RBNZオフィシャル・キャッシュレートを注目したい。現在、市場では来年前半での利上げ開始時期を予想する声が多い。声明で早期利上げを示唆することがあれば、NZドル買いが優勢となろう。ただし、前回に続きNZドル高を強くけん制するようだと、NZドル売りで反応する事も考えられる。

そして、NZの利上げ開始時期を読み解く上で、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融政策もまた、重要である。RBNZとしては、米国より先に金融引き締めを行ってNZドル独歩高となる展開は避けたいところであろう。米FRBが12月もしくは1月の連邦公開市場委員会（FOMC）で縮小開始するのであれば、RBNZが1月もしくは3月の金融政策発表で利上げを開始する事もありえる。（川畑）

（予想レンジ：80.300～87.000円）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

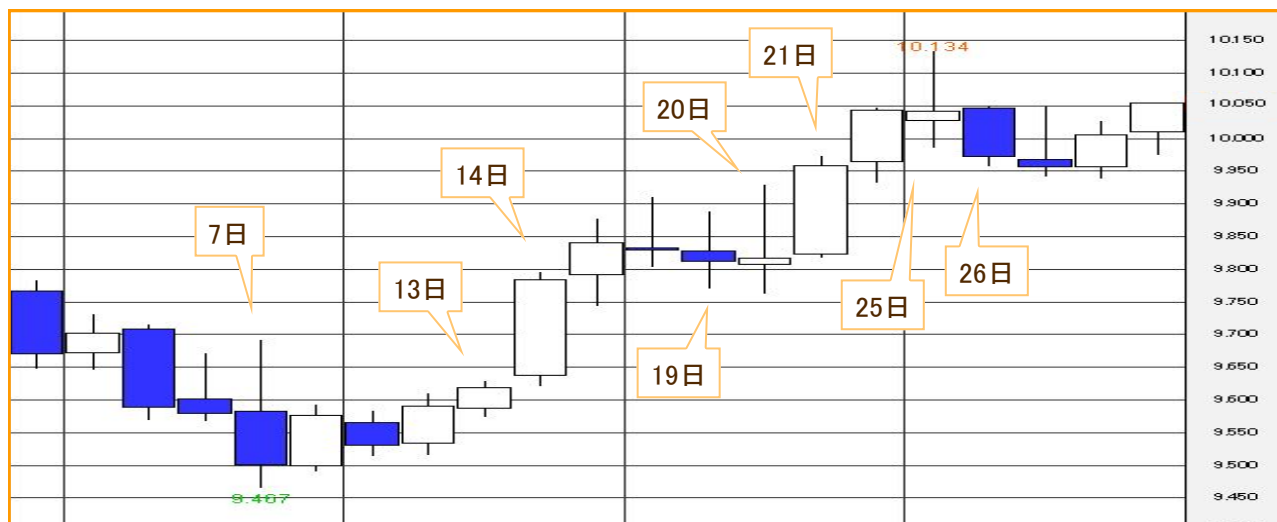
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(日)	11月中国製造業PMI	12/10(火)	11月中国小売売上高
12/2(月)	11月中国非製造業PMI	12/11(水)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
	11月米ISM製造業景況指数	12/12(木)	11月米小売売上高
12/4(水)	11月米ADP全国雇用者数	12/16(月)	11月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
	11月米ISM非製造業景況指数		日銀短観(日銀)
	米地区連銀経済報告(ページブック)	12/18(水)	米FOMC政策金利発表
12/6(金)	11月米雇用統計		第3四半期NZGDP
	12月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	12/20(金)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
12/8(日)	11月中国貿易収支		
12/10(火)	11月中国鋳工業生産		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## ランド/円 11月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.767円	10.134円	9.467円	10.055円



7日	NYダウ平均株価の史上最高値更新を好感してランド/円は9.692円まで上昇するも、同株価が下げに転じると一時9.467円まで急反落となった。
13日	南ア9月小売売上高は前年比+0.2%と予想(+2.5%)を大きく下回ったものの、市場の反応は薄かった。
14日	米連邦準備制度理事会(FRB)イエレン副議長が次期FRB議長の指名公聴会で、金融緩和を当面継続する方針を示した。これを受けてNYダウ平均株価が堅調に推移すると、ランド/円は一時9.795円まで値を上げた。
19日	経済協力開発機構(OECD)が2014年の同国の経済成長見通しを3.0%(前回5月は4.3%)としたが、市場の反応は薄かった。
20日	NYダウ平均株価が一時上昇した事を受け、ランド/円は9.930円まで値を上げるも、ややタカ派的な米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録などを受けてNYダウ平均株価が下落した事が重石となり、一時9.978円まで上げ幅を縮小した。なお、南ア10月消費者物価指数は前年比+5.5%と予想(+5.7%)を下回る伸びとなったが、市場の反応は限定的であった。
21日	SARBはほぼ市場予想通り、政策金利の5.00%据え置きを決定。声明で「ランドにとってインフレは上ぶれリスク」「下サイドの成長リスクがある」とし、今年の経済成長率見通しを引き下げた(+2.0%→+1.9%)。しかし「一段の緩和の余地はない」「確かに利上げは協議した」「今回の会合で利上げは適切と合意せず」等の見解を示した事を受けてランド買いが優勢となり、ランド/円は値を上げた。
25日	欧州株の上昇を受けてランド/円は10.134円まで値を上げるも、その後はドル/円が伸び悩んだ事を嫌気して一時9.987円まで反落した。
26日	南ア第3四半期国内総生産(GDP)は前期比年率+0.7%、前年比+1.8%と予想(+1.0%、+2.0%)を下回る伸びにとどまった。ただ、前回分の上方修正(前期比年率:+3.0%→+3.2%、前年比:+2.0%→+2.2%)もあり、ランド/円相場の反応は薄かった。その後SARBが11月の金融政策レビューで「インフレ上ブレのリスクを示し、中期的な見通しに重大なリスクが生じた場合『適切な行動』を取る必要がある」「通貨ランドについては、為替市場に介入しない姿勢」などの見方を示したが、こちらも反応は薄かった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今月のポイント

11月のランド/円相場は9.467円～10.134円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは2.9%の上昇(ランド高・円安)となった。主要国での株高を受けて「リスク・オン」となるも、米量的緩和の年内縮小観測を背景にドル高・資源安の流れとなったことが重石となり、ランド/円は前月に続き9円台半ば～10円台前半でのみ合いとなった。

今月のランド/円相場を読む上で、米連邦公開市場委員会(FOMC)に注目したい。市場では量的緩和の早期縮小開始観測が浮上する中、仮に今回のFOMCで縮小開始に踏み切るようならば、(米量的緩和の縮小により資金が流出するとの見方から新興国の通貨や株価が急落した)6月の動きが再現される可能性がある。その場合、大幅な経常赤字を抱え海外からの資金流入に頼らなければならない南アの通貨ランドは、他の資源国よりも強く売られる事が予想される。

南アでは今月、金融政策が予定されていないものの、ランド安が進行する場面では要人発言から通貨防衛のため利上げを示唆する発言が出る事も考えられる。しかし、ブラジルやインドネシアなどが利上げを行うも結果として自国通貨安に歯止めが掛かっていないため、ランド/円相場への影響は限られそうだ。(川畑)

(予想レンジ:9.200～10.500円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
12/1(日)	11月中国製造業PMI	12/10(火)	11月中国小売売上高
12/2(月)	11月中国非製造業PMI	12/11(水)	11月南ア消費者物価指数
	11月米ISM製造業景況指数		10月南ア実質小売売上高
12/4(水)	11月米ADP全国雇用者数	12/12(木)	11月南ア生産者物価指数
	11月米ISM非製造業景況指数		11月米小売売上高
	米地区連銀経済報告(ページブック)	12/16(月)	11月中国HSBCフラッシュ製造業PMI
12/6(金)	11月米雇用統計		日銀短観(日銀)
	12月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	12/18(水)	米FOMC政策金利発表
12/8(日)	11月中国貿易収支	12/20(金)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
12/10(火)	11月中国鉱工業生産	12/31(火)	11月南ア貿易収支

巻頭の特記事項を必ずお読みください。